


政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	4－1 市民の安全・安心を守る
施策	4－1－1 防災対策の推進

指標NO	109
------	-----

指標名	耐震補強が必要な橋梁の改善率	単位	%
-----	----------------	----	---

指標の説明	震災時に損壊のおそれのある道路橋の耐震化を行った割合	担当局（区）	建設局
-------	----------------------------	--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	77.7	87.8	100	
現状値	60.4	79.1	－	－	

目標設定 の考え方	地震などの災害時に、避難や復旧活動などに支障を来さないよう交通の寸断を防止するため、橋梁の耐震化を推進することとして目標値を設定した。
--------------	---

【達成状況の分析】 国経済対策による補正予算を積極的に活用し、緊急輸送道路に関する橋梁の耐震化を重点的に推進した結果、目標値を達成できた。
【課題及び今後の取組みの方向性】 緊急輸送道路に関する橋梁の耐震化が完了したことから、今後は、第三者への影響が大きい鉄道を跨ぐ一部の耐震補強未対策橋梁について、鉄道事業者との協議調整を進め、耐震化を可能な限り前倒しできるよう事業を推進していく。

指標を構成する事業

計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	橋梁の整備（耐震強化及び長寿命化）	耐震補強	91橋	19橋	110橋	110橋	達成	3,538,090

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
-----	-----	--------	--------	-------------	--------	--------	----	-----

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－1 市街地の整備

指標NO	128
------	-----

指標名	駅前など、市内の市街地は整備されて魅力的だと感じる	単位	%
-----	---------------------------	----	---

担当局（区）	都市局
--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	40.0	45.0	50.0	△
現状値	31.0	32.1	－	－	

目標設定 の考え方	JR千葉駅周辺の再開発や幕張駅北口の区画整理事業の推進により、市街地の魅力の向上を図ることを目指し、目標値を設定した。
--------------	---

【達成状況の分析】
市街地の魅力向上を目指し、再開発や区画整理事業を推進しているが、どちらも長期間にわたる事業であり、事業途中段階での市街地は魅力的だと感じられにくいことから平成26年度末目標値には到達しなかった。 計画事業「千葉駅西口地区第二種市街地再開発」の取組みとして千葉駅西口の駅前広場や再開発ビルが完成したことにより、同駅周辺において一定の魅力向上を図ることはできたものの、同駅舎自体の建替工事が東日本大震災などの影響で遅れが生じていることなどから、印象を損ねたものと推察される。 また、土地区画整理事業による市街地の形成は、東幕張地区に予算を集中的に投入し、事業進捗は概ね目標どおり達成することができたが、検見川・稲毛地区及び寒川第一地区においては、予算規模の縮小により計画どおりの進捗が図れなかった。 さらに、「幕張新都心若葉住宅地区の整備促進」については、道路、公園は完成したものの、住宅の立地は今後進められることから、魅力的な市街地として指標を改善するには不十分だったと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】
千葉駅の魅力向上には、JRによる同駅の建替工事完成とエキナカ施設の供用開始、さらにはJR・モノレールの連絡通路の供用開始による乗換利便性の向上が大きく影響する。現在は、これらすべての完成目標を平成30年夏以降に置き、JR・モノレールの連絡通路の整備や千葉駅西口広場とJR千葉駅の駅ビルを接続するデッキの整備などを促進していく。 また、東幕張地区については、駅前広場を含む幹線道路等の早期完成に向け、公共施設の整備・改善を行っていく。 今後、都市型住宅の立地によりまちづくりが進められる幕張新都心若葉住宅地区は、現在事業者と地区計画の策定に取り組んでおり、魅力的な市街地の形成に向けた取組みを進めていく。

指標を構成する事業
計画事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉駅西口地区第二種市街地再開発	駅前広場	－	整備 6,280㎡	供用	供用	達成	1,937,448
2	千葉駅西口地区第二種市街地再開発	区画道路	1路線供用	整備 320㎡	供用	供用	達成	
3	千葉駅西口地区第二種市街地再開発	歩道橋	－	整備	供用	供用	達成	
4	千葉駅西口地区第二種市街地再開発	A棟建築	杭基礎工事	工事	完成	完成	達成	
5	千葉駅西口地区第二種市街地再開発	千葉港黒砂台線の道路整備の推進	一部供用	歩車道整備	供用	供用	達成	
6	検見川・稲毛地区土地区画整理	道路築造	12,745m	410m	13,155m	13,035m	未達成	602,993
7	寒川第一土地区画整理	道路整備	1,895m	199m	2,094m	2,005m	未達成	481,433
8	東幕張土地区画整理	道路築造	1,587m	750m	2,337m	2,270m	概ね達成	2,244,449
9	JR千葉駅建替えの促進	JR・モノレール駅連絡通路	協議	実施設計、工事	工事	工事（スケジュール遅れ）	未達成	80,224
10	JR千葉駅建替えの促進	JRや地元関係者との意見交換会	－	2回／年	2回／年	3回／年	達成	
11	千葉西銀座（1・2街区）地区市街地再開発の促進	市街地再開発事業	準備組合設立に向けた協議	都市計画決定、市街地再開発組合設立、工事	工事	関係者間協議など	未達成	0
12	生活機能拠点におけるまちづくりの促進	整備構想の策定	関係機関との協議	策定	策定	整備構想案の検討	未達成	0
13	幕張新都心若葉住宅地区の整備促進	県による土地分譲促進	基盤整備等	土地分譲	土地分譲	土地分譲	概ね達成	0

その他事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－2 計画的な土地利用の推進

指標NO	129
------	-----

指標名	買物などの日常の外出は、車を使わなくても便利だと感じる	単位	%
-----	-----------------------------	----	---

担当局（区）	都市局
--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	50.4	52.6	55.0	×
現状値	48.2	46.8	－	－	

目標設定 の考え方	計画的なまちづくりを推進し、公共交通機関の利便性の向上など、生活しやすいまちづくりを目指し、目標値を設定した。
--------------	---

【達成状況の分析】
計画的なまちづくりを推進しているところであるが、平成26年度末目標値に到達しなかった。 現状では、人口の増加と市街地の拡張が続いていることや、生活機能の立地状況などの要因から、当該指標で市民が便利さを実感できていないと考えられる。 また、市民の安全で快適な生活と効率的な都市経営との両立を図る都市づくりを進めるため平成28年3月にの「都市計画マスタープラン」を策定したがは平成27年度末策定予定であること、また、計画事業「総合交通政策の推進」の取組み「住民参画型コミュニティバス等の運行」について、市内1地区より相談はあるが、地域内において運行経路等の検討・協議を進めている最中であり、運行に至っていない状況のため目標値に到達できなかったも影響しているのではないかと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】
平成28年3月に策定した27年度末策定予定の都市計画マスタープラン（平成28年度から10年間の市の都市計画の基本的な方針を示したもの）では、本市の人口構造など社会情勢の変化を長期的に展望しつつ、新基本計画に定める「集約型都市構造」への転換を見据えた、本市の都市づくりの将来像や方向性を示すこととする。 また、第2次実施計画事業「地域参画型コミュニティバス等導入の推進」では、運行に向けた検討・協議が進んでいる地区をモデルとして運行支援制度を策定し、市民生活に必要な諸機能を、駅などを中心とした徒歩圏に集約し、自家用車に過度に依存しない集約型都市構造の実現に向け、地域の移動手段確保への取り組んでいく。みに対し、支援を行っていく。

指標を構成する事業
計画事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	都市計画マスタープランの見直し	都市計画マスタープラン策定	－	全体構想の一部見直し、素案作成	全体構想の一部見直し、素案作成	土地利用現況調査 完了 都市計画マスタープラン 全体構想の一部見直し・ 素案作成	達成	18,861
2	総合交通政策の推進	住民参画型コミュニティバス等の運行	運行手段の検討	1路線	1路線	検討	未達成	13

その他事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－3 良好な都市景観の形成

指標NO	130
------	-----

指標名	市内の街並みの景観は良好だと感じる	単位	%
-----	-------------------	----	---

担当局（区）	都市局
--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	39.7	42.3	45.0	✕
現状値	37.1	36.3	－	－	

目標設定の考え方	景観形成推進地区の指定など、景観施策の推進により、良好な街並みの形成を目指し、目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】
都市の良好な景観形成を図るため、「景観資産の発掘のための表彰の実施」や「条例に基づく景観形成推進地区の指定」など、景観施策を推進しているところであるが、平成26年度末目標値の39.7%には到達しなかった。 景観形成推進地区に指定した幕張新都心地区のある美浜区では前回よりも1.5ポイント数値が向上した。一方、平成26年度末までに地区指定を行う予定だった中央公園プロムナード沿道地区については、千葉駅周辺の活性化グランドデザインが大幅に変更される見込みとなったため、現状では地区指定の手続きを進めることができなかったことから、計画事業「景観形成の推進（景観形成推進地区の指定）」が未達成となり、目標値に到達できなかったと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】
今後、中央公園プロムナード沿道地区における景観形成推進地区の指定に向けては、千葉駅周辺の活性化グランドデザインの動向を受けて、千葉駅前大通りの景観形成推進地区の景観ルールの合意形成に時間を要するなどの課題があるが、引き続き良好な景観形成に向けた沿道企業への働きかけなどを行うことにより、さまざまな景観形成に向けた活動の取組みを行っていく。 具体的には、当地区の景観形成推進の中心となる「千葉駅前大通り景観推進協議会」との連携を着実に推進することに加え、同協議会への参加者を誘発するため、景観づくり研修会を引き続き開催するなど、地区における継続した景観保全活動を担う活動団体との関係構築の強化を図る。 一方、その他事業の「都市文化賞の実施」については、市内における良好な景観資産の発掘に向けて、市民向けの周知を充実させるなどの取組みを進める。 中央公園プロムナード沿道地区について、平成28年3月に策定された千葉駅周辺の活性化グランドデザインにより、今後、より具体的な景観形成地区指定に向けた手続きへ着手できることを見込んでいる。 そのためには、千葉駅前大通りの景観形成推進地区の景観ルールの合意形成に時間を要するなどの課題はあるものの、引き続き良好な景観形成に向けた沿道企業への働きかけなどさまざまな景観形成に向けた活動の取組みを行っていく。具体的には、当地区の景観形成推進の中心となる「千葉駅前大通り景観推進協議会」との連携を着実に推進することに加え、同協議会への参加者を誘発するため、景観づくり研修会を引き続き開催するなど、地区における継続した景観保全活動を担う活動団体との関係構築の強化を図る。 一方、その他事業の「都市文化賞の実施」については、市内における良好な景観資産の発掘に向けて、幅広い年代の市民に向けて各種媒体を活用した周知や、都市文化賞に応募・参画しやすい企画を充実させるなどの取組みを進める。

指標を構成する事業

計画事業								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	景観形成の推進	景観形成推進地区の指定	1地区	2地区増	3地区	1地区	未達成	0

その他事業								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	都市文化賞の実施	表彰の実施	実施	実施	実施	実施	達成	1,179

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－3 良好な都市景観の形成

指標NO	131
------	-----

指標名	良好な景観形成の推進を図る地区数	単位	地区
-----	------------------	----	----

指標の説明	地域の特性を活かした都市景観の形成を推進する地区数	担当局（区）	都市局
-------	---------------------------	--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	2	3	4	△
現状値	0	1	－	－	

目標設定 の考え方	良好な景観形成に関心の高い事業者、住民等との調整を図り、地区指定に向けた取組みを進める。
--------------	--

【達成状況の分析】
都市の良好な景観形成を図るため、条例に基づく景観形成推進地区の指定など、景観施策を推進しているところであるが、平成26年度末目標値の2地区には到達しなかった。 主な原因として考えられるのは、平成26年度末までに地区指定を行う予定だった中央公園プロムナード沿道地区で、千葉駅周辺の活性化グランドデザインが大幅に変更される見込みとなったため、現状では地区指定の手続きを進めることができなかったことから、計画事業「景観形成の推進（景観形成推進地区の指定）」が未達成となり、目標値に到達できなかったと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】
今後、中央公園プロムナード沿道地区においては、千葉駅周辺の活性化グランドデザインの動向を受けて、千葉駅前大通りの景観形成推進地区の景観ルールの合意形成に時間を要するなどの課題があるが、引き続き良好な景観形成に向けた沿道企業への働きかけなどを行うことにより、さまざまな景観形成に向けた活動の取組みを行っていく。 具体的には、当地区の景観形成推進の中心となる「千葉駅前大通り景観推進協議会」との連携を着実に推進することに加え、同協議会への参加者を誘発するため、景観づくり研修会を引き続き開催するなど、地区における継続した景観保全活動を担う活動団体との関係構築の強化を図る。 中央公園プロムナード沿道地区について、平成28年3月に策定された千葉駅周辺の活性化グランドデザインにより、今後、より具体的な景観形成地区指定に向けた手続きへ着手できることを見込んでいる。 そのためには、千葉駅前大通りの景観形成推進地区の景観ルールの合意形成に時間を要するなどの課題はあるものの、引き続き良好な景観形成に向けた沿道企業への働きかけなどさまざまな景観形成に向けた活動の取組みを行っていく。具体的には、当地区の景観形成推進の中心となる「千葉駅前大通り景観推進協議会」との連携を着実に推進することに加え、同協議会への参加者を誘発するため、景観づくり研修会を引き続き開催するなど、地区における継続した景観保全活動を担う活動団体との関係構築の強化を図る。 上記地区のほかに景観形成推進地区の指定を検討している2地区（平成28年1月現在）においても、地域特性に応じた景観デザイン指針の策定に向け、関係者の意向を尊重しながら情報交換や関係強化に努める。

指標を構成する事業

計画事業									(千円)
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	
1	景観形成の推進	景観形成推進地区の指定	1地区	2地区増	3地区	1地区	未達成	0	

その他事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費	(千円)
-----	-----	--------	--------	-------------	--------	--------	----	-----	------

政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－4 住宅・住環境の充実

指標NO	132
------	-----

指標名	市内の住環境は良好だと感じる	単位	%
-----	----------------	----	---

担当局（区）	都市局
--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	57.0	59.3	60.0	△
現状値	54.8	54.8	－	－	

目標設定 の考え方	分譲マンションの再生支援や、耐震助成、市営住宅の建替えなどを通じた良好な住環境の充実を目指し、目標値を設定した。
--------------	--

【達成状況の分析】
市内の住環境を充実させるため、実施計画事業など様々な取組みを実施してきたところであるが、26年度末の目標値に到達しなかった。 計画事業「市営住宅の整備」については、目標事業量を概ね達成したほか、「分譲マンションの再生支援」についても、計画期間としては達成できなかったものの、平成26年度は目標以上の助成を行った。理由としては、市民に制度の周知が徐々に進みつつあることが考えられる。 しかし、「耐震助成・耐震改修の助成」については、費用が高額なため木造住宅の耐震診断と分譲マンションの耐震改修の申請件数が少なかったこと、また、「密集市街地の環境整備」について、地元の合意形成に時間を要しており、事業があまり進捗しなかったことなどから、目標値に到達しなかったと考えられる。 当指標について、市全体では54. 8%であるが、年齢別では若年層が高く、高齢者が低い、区別では美浜区が高くなっており、かなりの幅があることから、住環境とは住宅単体の問題ではなく、様々な周辺環境が影響しているものと考えられる。
【課題及び今後の取組みの方向性】
第2次実施計画においても、「市営住宅の整備」、「耐震診断・耐震改修の助成」を引き続き実施する。耐震性を満たしていない住宅の所有者に対し制度の周知を図るため、耐震性を満たしていない住宅地域にチラシのポスティングなどの啓発活動を行っていく。また、「密集市街地の環境整備」については、地元の合意形成を促進するため、町内自治会等に対し支援を行っていく。特に、耐震改修の助成については、より効果的な制度とするため、助成額拡充の検討をすすめる。 分譲マンションの再生については、様々な機会を捉えて、制度の普及・啓発を図るとともに、更に利用しやすい制度とするため、補助要件の緩和を行い、再生の推進を見込んでいる。 当指標の状況から、高齢化に対する施策や地域ごとの課題を把握し、その施策について検討していく。

指標を構成する事業
計画事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	サービス付き高齢者向け住宅供給の促進	サービス付き高齢者向け住宅の供給	調査、登録制度の創設	調査、整備基準等の策定	整備基準等の策定	中止	中 止	0
2	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震診断(木造住宅)	381戸	100戸/年	681戸	496戸	未達成	87,191
3	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震診断(分譲マンション)	4棟	1棟/年	7棟	7棟	達 成	
4	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震改修(木造住宅)	168戸	50戸／年	318戸	302戸	概ね達成	
5	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震改修(分譲マンション(設計))	－	1棟／年	3棟	1棟	未達成	
6	分譲マンションの再生支援	助成	4件	9件	13件	11件	未達成	1,441
7	密集住宅市街地の環境整備	椿森3丁目・稲毛東5丁目地区の環境整備	事業計画作成	路線・現況測量 6路線、境界測量 5.0ha、道路予備・詳細設計 6路線	道路予備・詳細設計 6路線完了	現況測量 6路線	未達成	5,936
8	市営住宅の整備(市営住宅の建替)	宮野木町第1団地	造成	工事	完了	完了	達 成	2,890,272
9	市営住宅の整備(市営住宅の建替)	轟町第3・4団地	－	測量調査、用途廃止	売却	売却	達 成	
10	市営住宅の整備(市営住宅の建替)	桜木町団地	－	解体工事、実施設計	実施設計	解体工事、実施設計	達 成	
11	市営住宅の整備(市営住宅の建替)	宮野木町第2団地	－	基本設計	基本設計	基本設計	達 成	
12	市営住宅の整備(市営住宅の改善)	市営住宅の改善(手すり設置)	610戸	510戸	1,120戸	1,024戸	概ね達成	
13	市営住宅の整備(市営住宅の改善)	市営住宅の改善(給水設備)	1団地(23年度事業量)	3団地	3団地	3団地	達 成	
14	市営住宅の整備(市営住宅の改善)	市営住宅の改善(屋上防水)	5団地(23年度事業量)	5団地	5団地	5団地	達 成	
15	市営住宅の整備(市営住宅の改善)	市営住宅の改善(外壁改修)	1団地(23年度事業量)	5団地	5団地	5団地	達 成	
16	狭あい道路の拡幅(建築指導課分)	狭あい道路の整備	10.4km	1.0km	11.4km	12.8km	達 成	55,233

その他事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24～26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－4 住宅・住環境の充実

指標NO	133
------	-----

指標名	高齢者の暮らしている住宅のバリアフリー化率	単位	%
-----	-----------------------	----	---

指標の説明	高齢者（65歳以上の者）の居住する住宅の一定のバリアフリー化率（一定のバリアフリー化率：2箇所以上の手すり又は屋内の段差解消）	担当局（区）	都市局
-------	---	--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	49.7	－	75.0	✕
現状値	38.9	38.8	－	－	

目標設定 の考え方	リフォームに関する情報提供・相談体制の充実により、高齢者の暮らしているバリアフリー化された住宅割合の向上を目指し設定した。
--------------	---

【達成状況の分析】
計画事業「市営住宅の整備」の取組みや、その他事業「住宅情報提供事業」の実施などにより、バリアフリー化を促進しているが、26年度末の目標値に到達しなかった。 主な理由としては、バリアフリー化している住宅は5年間で約15,000戸増加しているものの、それ以上に指標の分母となる市内65歳以上の世帯数が増加しているためである。 なお、「サービス付き高齢者向け住宅供給の促進」については、住宅の供給量が概ね順調に増えており、また国及び千葉県の補助制度が創設されているため、補助制度の新設は中止することとした。 当指標の対象である65歳以上のいる世帯数と一定のバリアフリー化された住宅数の増加率は政令市平均値を上回っている。しかしながら、世帯数の増加に、バリアフリー化が追いついていない。
【課題及び今後の取組みの方向性】
市営住宅などの公的な住宅については、計画的にバリアフリー化は進んでいるが、既存の民間住宅については建物所有者の高齢化に伴い、改修工事費の負担等により、その進捗が遅れていることから、手すり設置等のバリアフリー化の必要性の啓発に努めていく。 今後は高齢者住宅改修費支援サービス事業（助成制度）の情報提供を行っていくとともに、バリアフリー化を進めるため、新たな施策の検討を行っていく。

指標を構成する事業

計画事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	サービス付き高齢者向け住宅供給の促進	サービス付き高齢者向け住宅の供給	調査、登録制度の創設	調査、整備基準等の策定	整備基準等の策定	中止	中止	0
2	市営住宅の整備（市営住宅の建替）	宮野木町第1団地	造成	工事	完了	完了	達成	2,890,272
3	市営住宅の整備（市営住宅の改善）	市営住宅の改善（手すり設置）	610戸	510戸	1,120戸	1,024戸	概ね達成	

その他事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量（H24～26）	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	住宅情報提供事業	住宅に関する情報提供、専門的な相談窓口の紹介	実施	実施	実施	実施	達成	0

政策評価シート【個票：客観指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－4 住宅・住環境の充実

指標NO	134
------	-----

指標名	耐震性のある住宅の割合	単位	%
-----	-------------	----	---

指標の説明	耐震基準に適合した建築物など、耐震性を満たしていると推計される住宅ストックの比率	担当局（区）	都市局
-------	--	--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 (H26末値)	H30中間評価 (H29末値)	H34最終評価 (H33末値)	達成状況
目標値	－	88.6	90	95	
現状値	84.4	85.9	－	－	

目標設定の考え方	耐震診断や耐震改修の助成制度等により、建築物の所有者等の取組み支援し、耐震性を高める目標値を設定した。
----------	---

【達成状況の分析】
計画事業「耐震診断・耐震改修の助成の推進」やその他事業「千葉市耐震改修促進計画の推進」などにより、建築物の所有者等の取組みを支援し、耐震性の向上を図っているところであるが、平成26年度末の目標値である88.6に到達しなかった。 要因として、平成24年度は、東日本大震災の影響により申請数は増加したが、平成25・26年度は、耐震改修に多額の費用を要すること、建築物の所有者の高齢化が進み、所得が減少していることなどから、SNSを利用した啓発、出前講座などにより制度の周知を図ったものの、申請件数が減少したことが考えられる。 本指標のH25年の全国平均は82％となっており、同年の千葉市の数値は85. 5％で全国平均を上回っている。また、政令市の中では、中位となっている。
【課題及び今後の取組みの方向性】
建築物の所有者の高齢化が進み、所得が減少していることなどが耐震改修を躊躇させる原因と考えられることから、制度の改善や制度の周知などに取り組んでいく。 目標達成には耐震改修のペースを上げることが必要であり、そのため、市民の防災意識の向上と補助制度の周知が進むよう、市政だより、説明会、密集住宅市街地地区へのポスティング、出前講座、マンション管理組合への通知、消防フェア等でのPRIに取り組んでいる。 さらに、市民の負担軽減が図れるよう、二段階に分けて耐震改修を行う場合や比較的低廉な耐震シェルターの設置についても補助対象となるよう、今年度から制度を拡充している。今後、改修費用に対する、助成額の拡充により、耐震化の推進を見込んでいる。

指標を構成する事業

計画事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震診断(木造住宅)	381戸	100戸/年	681戸	496戸	未達成	87,191
2	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震診断(分譲マンション)	4棟	1棟/年	7棟	7棟	達成	
3	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震改修(木造住宅)	168戸	50戸/年	318戸	302戸	概ね達成	
4	耐震診断・耐震改修助成の推進	耐震改修(分譲マンション(設計))	－	1棟/年	3棟	2棟	未達成	
5	住宅建築資金利子補給の推進	利子補給件数	7件	3件/年	16件	12件	未達成	1,976

その他事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24～26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	千葉市耐震改修促進計画の推進	耐震改修への助成など	実施	実施	実施	実施	概ね達成	0


政策評価シート【個票：生活実感・行動指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－5 生活基盤の充実

指標NO	135
------	-----

指標名	生活を支える上下水道や道路などを安心して使うことができる	単位	%
-----	------------------------------	----	---

担当局（区）	建設局
--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	65.2	67.6	70.0	
現状値	62.8	68.2	－	－	

目標設定の考え方	上下水道や道路等の生活基盤の整備は極めて重要であることから、道路ネットワークの形成、上下水道、橋梁及び歩道等の整備などの生活基盤の充実を図ることとして目標値を設定した。
----------	--

【達成状況の分析】
浸水の防除（市民が行う設置工事に対する助成事業）など目標が未達成な事業があるものの、市民生活に影響が大きい舗装の新設改良や側溝の新設改良、老朽化下水道施設の改築・更新、橋梁の整備（耐震強化及び長寿命化）等がほぼ個別目標を達成したことで、市民生活において、生活基盤の充実を実感することができ、目標値を達成できたものとする。
【課題及び今後の取組みの方向性】
未達成となった貯留浸透施設や防水板設置助成については、今後も引き続き市政だよりやホームページへの掲載、各区役所等でのパンフレットの配架などPR活動により更なる活用の促進を図っていくとともに、商業施設でのPR活動など新たな周知方法の検討を進める。また、個別目標を達成した舗装の新設改良や側溝の新設改良、老朽化下水道施設の改築・更新、橋梁の整備（耐震強化及び長寿命化）等については市民生活に影響が大きいことから、今後も引き続き事業を推進し、上下水道や道路等の生活基盤の充実を図る。

指標を構成する事業
計画事業

No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費 (千円)
1	市道三角町柏井町線（柏井橋）の橋梁架替	橋梁架替	詳細設計	用地取得、仮橋・迂回路築造、既設橋撤去	仮橋・迂回路築造、既設橋撤去	既設橋撤去 迂回路整備完了	概ね達成	684,713
2	主要地方道穴川天戸線（亥鼻橋）の橋梁架替	橋梁架替	迂回路詳細設計	用地取得、橋梁詳細設計、仮橋・迂回路築造	仮橋・迂回道路整備完了	仮橋架設完了	概ね達成	261,359
3	下水道施設の耐震化	管渠耐震化	下水道総合地震対策計画策定 7km	13km	20km	34km	達成	4,415,465
4	浸水の防除	貯留浸透施設	貯留槽 1,452基 浸透柵 1,332個	貯留槽 300基 浸透柵 300個	貯留槽 1,752基 浸透柵 1,632個	貯水槽 1,762基 浸透柵 1,371個	未達成	3,237,631
5	浸水の防除	防水板の設置促進（防水板設置助成）	10件	50件	60件	20件	未達成	
6	浸水の防除	雨水管渠の整備	雨水管整備 2km 調整池改修 2か所 (23年度事業量)	雨水管整備 5km 調整池改修 1か所	雨水管整備 5km 調整池改修 1か所	雨水管整備 4.6km 調整池改修 2か所	概ね達成	
7	浸水の防除	雨水浸透施設の整備	浸透柵 3,310個 浸透マンホール 66基	浸透柵 300個 浸透マンホール 8基	浸透柵 3,610個 浸透マンホール 74基	浸透柵 3,374個 浸透トレンチ管 515m 浸透マンホール 74基	達成	
8	生活道路の整備	生活道路の整備	調査 4路線 整備 5路線	調査 1路線 整備 11路線	調査 1路線 整備 5路線 完了 6路線	調査 3路線 整備 4路線 完了 5路線	概ね達成	319,241
9	市道横戸町23号線の整備	道路整備	用地取得率 50.2%	用地取得 10件、道路拡幅、歩道新設	供用開始	用地取得 71.7%	未達成	51,110
10	狭あい道路の拡幅	狭あい道路の整備	10.4km	1.0km	11.4km	12.8km	達成	55,233
11	舗装の新設	舗装の新設	1.9km(23年度事業量)	3.2km	3.2km	3.2km	達成	171,282
12	舗装の改良	舗装の改良	16.0km(23年度事業量)	45.1km	45.1km	45.1km	達成	3,868,373
13	側溝の新設	側溝の新設	1.6km(23年度事業量)	4.6km	4.6km	5.5km	達成	366,436
14	側溝の改良	側溝の改良	6.2km(23年度事業量)	22.6km	22.6km	22.0km	概ね達成	1,109,483

政策評価シート【個票:客観指標】

施策の柱	4－2 快適な暮らしの基盤をつくる
施策	4－2－5 生活基盤の充実

指標NO	136
------	-----

指標名	下水道汚水処理普及率	単位	%
-----	------------	----	---

指標の説明	行政人口に対する下水道汚水処理人口の割合	担当局（区）	建設局
-------	----------------------	--------	-----

区 分	H23末 現状値	H27中間評価 （H26末値）	H30中間評価 （H29末値）	H34最終評価 （H33末値）	達成状況
目標値	－	97.6	97.7	97.8	△
現状値	97.2	97.2	－	－	

目標設定 の考え方	下水道の汚水管渠の整備を推進することとして目標値を設定した。
--------------	--------------------------------

【達成状況の分析】 衛生的で快適な市民生活を実現するため、周辺環境の改善やトイレの水洗化を図る汚水管渠の整備を推進しているところであるが、平成26年度末は目標値の97.6%に到達しなかった。 目標値を下回った理由として、汚水管渠の整備面積は概ね計画通り事業を実施しているものの、下水道整備区域内人口は増加したが、想定以上に行政人口も増加したため、普及率が上がらなかった。
【課題及び今後の取組みの方向性】 引き続き、下水道中長期経営計画に基づき、効率の良い事業の絞り込みを行い、費用対効果が見込める箇所のうち、市街化区域内で単独浄化槽及び汲み取り箇所等について、重点的に整備を進めていく。

指標を構成する事業
計画事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	計画内容	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費
1	汚水の排除(汚水管渠の整備)	汚水管渠の整備	12,193ha	20ha	12,213ha	整備面積 12,212ha	概ね達成	844,019

その他事業

(千円)								
No.	事業名	主な取組項目	H23末現況	事業量(H24～26)	H26末目標	H26末実績	進捗	事業費